

KUO GROUP

Vバンテリン

TEAM TOM'S



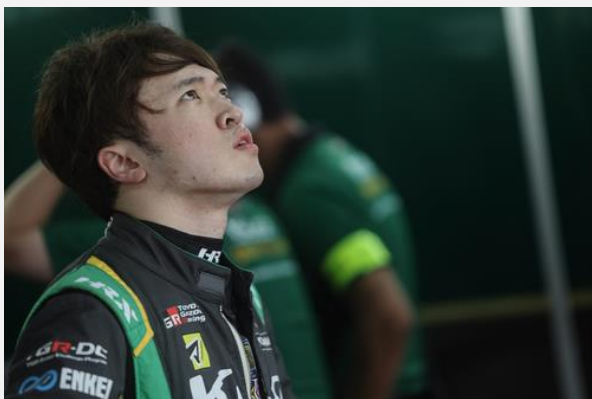
 SUPER
FORMULA

RACE REPORT

Rd.7 : モビリティリゾートもてぎ

天候：曇り・ドライ / 気温：26-27℃ / 路面温度：35-37℃

今シーズンの開幕イベント以来のダブルヘッダーとなる第7戦、第8戦が行われるモビリティリゾートもてぎ。早朝9時20分から開始される予選の前、同日の走行はなく、前日金曜日に1時間半のフリー走行が行われている。2グループに分かれて行われるQ1でトップ6、計12台がQ2に進出。金曜日の練習走行で苦戦したKuo VANTELIN TEAM TOM'Sの2台だったが、予選へ向けてのセットアップを変更して臨んだ。37号車の宮田莉朋は、Q1を突破してQ2に進出を果たすが、Q2アタックの前にトラフィックに引っかかってしまい、十分なタイヤのウォームアップを行えず、思うようにタイムアップが出来ず9番手で決勝第7戦を迎えることとなった。ジュリアーノ・アレジは、Q1でアタックのコースイン後に同じトラフィックに阻まれる位置取りとなってしまい、こちらも十分なタイヤウォームアップができないまま、Q2に進出できずに予選を終えてしまった。



- 宮田莉朋がAグループ。ジュリアーノ・アレジがBグループでQ1のタイムアタックを行った。
- 宮田は、コースインして3周目にアタックを開始しようとしたが、2コーナーから3コーナーを走行している時に、コースインしてきたばかりのマシンが前を走行していたため、アタックを中止。翌周に再アタックして6番手となってQ1を突破することに成功した。
- アレジもQ2進出を目指してコースイン。しかし、このBグループでは、各車が接近して集団となってしまっていた。そして、その集団のペースが遅く、フロントタイヤを十分にウォームアップできないまま、終了の時間が迫ってきた。アタックできたのは最後の1周のみで、不本意なタイムに終わり、結果はグループ9番手。Q1で敗退という結果となった。
- Q2に進出した宮田は、7分間のセッションでトラフィック、集団の中で走行せざるを得ない状況となり、セッション終了10秒前によやくアタックラップに入り、Q1のタイムは更新したものの、結果は9番手。こちらも不本意な結果で決勝を迎えることとなった。
- アレジは、18番手グリッドからスタートする。



Driver	Car No.	Q1	Q2
ジュリアーノ アレジ	36	9 1'31.658	
宮田 莉朋	37	6 1'31.439	9 1'31.300

天候：曇り・ドライ / 気温：26-27℃ / 路面温度：35-37℃



ジュリアーノ・アレジ

36 / ドライバー

金曜日の練習走行の段階からアンダーステアが酷くて、タイムが伸びずに苦労した。予選に向けて、セッティングを変更してもらって、良くなっているはずだった。予選までは同日に一切の練習走行はないので、Q1の時間内でマシンのチェックをして、タイムアタックをしなければならなかったけど、重要視していたフロントタイヤのウォームアップが全くと言っていいほどできなかった。スローカーの背後についてしまったので、タイヤを暖めるスピードまで達することができなかった。10分間という短いQ1で十分な走行ができずに本当に悔しい結果となってしまった。決勝は、後方からのスタート。序盤からプッシュ、そして作戦で順位を上げてフィニッシュしたい。



宮田 莉朋

37 / ドライバー

金曜日の走り出しから良くなって、それが予選でも引きずっていますね。ここが悪いというところはないのですが、もてぎの特徴である前半のストップ&ゴーのコースが得意ではないセッティングから抜け出せていないというのが問題ですね。Q1は、なんとか突破できましたけど、当然満足はしていません。そして、Q2では、コースインするタイミングと他車との間合いが悪くて、タイヤもブレーキも十分にウォームアップできずにアタックに入らなければならなかったので、タイヤのパフォーマンスを生かすことができずに終わってしまいました。



大立 健太

36 / レースエンジニア

金曜日の走り出しの状況は、悪くなかったのですが、ユーズドタイヤでのタイムの伸びが思ったほどなかった。そして、ジュリアーノがアンダーステアが酷いと訴えていたので、それをどうにか対処しようとしていました。アンダーを直すとブレーキングのパフォーマンスにも影響するので、両方が良くなる、両立させられる点を探していました。予選のアタックは、コースインしたタイミングが悪くて、前を走行していた2台が超スロー走行していて、タイヤのウォームアップが全くとなく終わってしまったので、Q1を突破できず、後方から決勝をスタートすることとなりました。



小枝 正樹

37 / レースエンジニア

練習走行の段階から改善点を探ってセッティングを変更はしましたが、まだ足りない部分があって、望んだほどは良くなかった。なんとかQ1は突破できましたが、ギリギリでなんとかQ2へ進出できたという状況ですね。そして、Q2ではトラフィックの真只中で走行しなくてはならず、コースインのタイミングを間違ってしまった結果ですね。セッティング自体は特に悪いところはなく、と言いますか、ここがもっと欲しいという点がないというのが悩みです。もてぎで重要なブレーキングの安定性をもっと高めて決勝に臨みたいと思います。



天候：雨・ウエット / 気温：26-25℃ / 路面温度：35-30℃

予選の同日午後に行われた第7戦決勝。グリッドに向かう前の8分間のウォームアップ、そしてグリッドに着くまでは、曇り空だったのに、全車がグリッドに着いた直後から雨が降り始め、スタート前のセレモニーが終わると本降りとなり、路面は完全にウエットへ変わった。グリッド上で各車は、レインタイヤへ交換してウエットレースとなった。巻き上がる水飛沫の中でスタートが切れ、ドライバーの視界は極端に悪い状況だった。9番手スタートの宮田莉朋、18番手スタートのジュリアーノ・アレジ共に1周目にひとつずつ順位を下げ、37週のレース序盤の周回を重ねた。宮田はトラブルでスローダウンしたマシンに追突しそうなシーンもあったが、8位でフィニッシュ。アレジは、セーフティーカーが導入された際にピットインしてタイヤ交換。その後一気にペースを上げて、一時9位まで順位を上げる。18番手スタートからなんと9台抜き。しかし、終盤にスピン、ペナルティ5秒も科せられ13位に終わった。



- 天候が一気に急変。グリッド上でタイヤをスリックからレインへ交換。しかし、セッティングを変更するほどの時間はなく、ドライセットのまま雨用のタイヤを装着した状態だった。
- オーガナイザーはセーフティーカー(SC)スタートを判断。3周目までSCが先導して、4周目からレースが開始された。
- 各車が巻き上げる猛烈な水飛沫の中でスタートが切られた。1周目に宮田、アレジは共に1ポジション下げて帰ってきた。
- 宮田は、前方を走る1台がコースオフしたため順位を戻して序盤を走行するが、視界が極端に悪く、14周目にメカカルトラブルでスローダウンしたマシンを間一髪でかわし、接触を避けることができた。大きなアクシデントに繋がらず幸이었다。
- 28周から30周までSCが導入された。リスタートで宮田は7位にポジションアップ。しかし、その後に前後のブレーキバランスが悪く後退し、8位フィニッシュとなった。
- アレジは、SCの際にピットイン。タイヤ交換後、一気にペースアップし9位へ。しかし、36周目にスピン、13位でレースを終えた。また、SC展開中に視界が悪く、前車を避けようとしてオーバーラン。これによって結果に5秒加算のペナルティを受けている。



Driver	Car No.	Race / Fastest Lap
ジュリアーノ アレジ	36	R13 / 1'52.409
宮田 莉朋	37	P8 / 1'51.055

天候：雨・ウエット / 気温：26-25℃ / 路面温度：35-30℃



ジュリアーノ・アレジ

36 / ドライバー

午前中の予選からコンディションが一転。これにはびっくりした。スタート直後はスプラッシュで全く前が見えない中、接触のリスクだけは避けたかったので、1周目に一つポジションを下げてしまった。そこからはひたすら前のマシンを追いかけることだけに集中した。レインタイヤの摩耗もどんどん進んで、ペースが保てなくなった。ちょうどSCがコースインして、ピットインし、新しいレインタイヤに交換してもらったら、一気にペースが上がって、どんどん前車をパスできた。でも、最後に5コーナーでスピンしてしまったのはミスだった。ポイントが取れただけに悔しい結果となってしまったけど、パッシングができたことは良かったと思っている。



宮田 莉朋

37 / ドライバー

とても難しいレースでした。レインタイヤを装着しただけで、スタートを切りましたが、思っていたよりは、悪い状態ではなかったのですが、すごいスプラッシュの中で前は全然見えないし、前のマシンに近づくとダウンフォースが一気に減って曲がらなくなってしまいますし、大変でした。あの状況でオーガナイザーがスタートを判断したのは正しかったのでしょうか。途中スピードダウンしたマシンに追突しそうにもなったし、大きなアクシデントが起きずに幸いでしたね。SC明けでは順位を上げられたのですが、ブレーキバランスが悪くなって、リヤばかり効いてしまって、毎週5コーナーでオーバーランしていました。それで最後にポジションダウンという結果でした。



大立 健太

36 / レースエンジニア

レース直前のウォームアップでマシンの確認をして、予選時より状態は良くなっていることが分かったのですが、グリッドについたら雨。最初はそれほどの雨量ではなかったのでセッティングを変えずに待っていたのですが、一気に本降りとなって、そのままレインタイヤを着けただけでスタートしてもらいました。後方からのスタートでは全く前が見えない状態だったそうです。それでも耐えて、SC中にタイヤ交換してからは9ポジションアップという速さを見せてくれました。最後のスピンはちょっと行きすぎてしまったのか、ペナルティもありポイントゲットはなりませんでした。



小枝 正樹

37 / レースエンジニア

突然の雨ですからね、グリッド上でレインセットに変更する間もなくスタートしていった状況ですね。1周目に一つポジションを落としてしまいましたが、あのスプラッシュの状況では中段で走行するのは相当難しかったと思います。タイヤが暖まってからは、ペースも少し良くなって、莉朋も単独走行だったなら、もっとペースは良かったと言っていました。マシン事態はドライセットで、コース状況に全くアジャストできていない状態ですから、乗りにくさはすごかったと思われる。SCのリスタートで順位を上げられたのですが、最後に抜かれてしまったのは、その乗りにくさと、前後のブレーキバランスも悪くなったのが原因ですね。



舘 信秀

総監督

予選では、本来の力を発揮できないまま終わってしまった。莉朋、ジュリアーノの二人がトラフィックで十分にタイヤを暖められずにタイムが出せないという結果だった。決勝は突然の雨。中段と後方からスタートする我がチームとしては、雨がポジティブな要素になってくれないかという期待もあった。しかし雨量が多く、スプラッシュで視界がとても悪い中では順位アップは容易ではなかった。その中で、ジュリアーノがSCの導入と共にピットインしてタイヤ交換、ペースアップして一時は10位内まで順位アップするという走りを見せてくれた。第8戦では予選から上位進出を目指したい。

KUO GROUP

Vバンテリン

Deloitte.



PONOS

KeepPer.



Nippon Pioneer

F.P.JOURNE
Invenit et Fecit



ALLWIN



S&D
TAMA GROUP

細井工業



KenkoTech

EDIFICE
CASIO

豊通テック

NEW TECH

ENKEI ThreeBond MOTUL

KUO GROUP

Vバンテリン

TEAM TOM'S



 SUPER
FORMULA

RACE REPORT

Rd.8 : モビリティリゾートもてぎ

天候：曇り・ドライ / 気温：27-28℃ / 路面温度：32-34℃

2レースが行われるもてぎラウンド。第8戦の予選は、第7戦と同じく午前に行われ、午後に決勝レースというイベントフォーマット。前日、土曜日の雨が残るのではないかと心配があったが、曇り空の下で予選を迎えることができた。路面も予選が始まる9時15分にはドライとなっていた。A、Bグループに分かれて行われるQ1。前日の雨によってコースのコンディションは、ラバーグリップが洗い流されて、新たな路面状況での予選アタックとなった。しかし、Kuo VANTELIN TEAM TOM'Sの36号車、37号車はともに苦戦。Q2進出を果たせずに関わってしまった。前日、各グループでアタック前にコース上で各車が接近して混雑した結果、タイヤのウォームアップが十分に行えなかったことを考慮して、今回は間合いをとってコースイン、アタックを行ったのだが、アレジ18番手、宮田は19番手から決勝をスタートすることとなった。



- アレジがAグループ。宮田がBグループでQ1に出走した。
- Q1Aグループでは開始3分を過ぎて一台がコースオフして、赤旗が提示され中断。残り時間6分25秒で予選が再開された。
- 再びコースインしてアタックをかけたアレジは、Q1突破までに0.28秒及ばず。
- Q1Bグループで出走した宮田の状況は、アレジよりも状況は悪かった。
- アタックをかけてもタイムが伸びず、なんとグループの最下位10番手で終えてしまった。
- 宮田、アレジ共にQ2には進めず、最終予選結果はアレジ18番手。宮田19番手となった。



Driver	Car No.	Q1	Q2
ジュリアーノ アレジ	36	18 1'31.988	
宮田 莉朋	37	19 1'31.323	

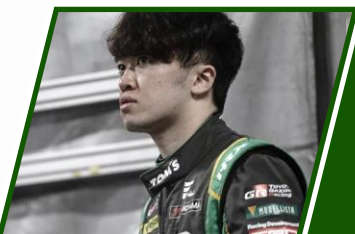
天候：曇り・ドライ / 気温：27-28℃ / 路面温度：32-34℃



ジュリアーノ・アレジ

36 / ドライバー

前日に比較すれば状態は良いと思うけど、ボクが望んでいるマシンのバランスにまだなっていない。それによって今回もQ1を突破できないという結果になってしまっている。第7戦の予選は、全くタイヤのウォームアップが行えなかったので、今日はちゃんとコースインのタイミングを考えていたけど、どうもバランスがしっくりこない。根本的にシーズンの初めから抱えているマシンのバランスの悪さが、もてぎでは強く出てしまっているように感じる。また後方からのスタート。決勝の天候もどうなるかわからない。もし雨なら大きく順位アップするチャンスもあるかもしれない。あとは、作戦面。SCも入るかもしれない。今回も頑張って順位を上げるしかない。



宮田 莉朋

37 / ドライバー

最悪の予選となってしまいました。グループの最後尾という絶望的な結果です。第7戦からセッティングを改善する意図で変更しているのですが、全くパフォーマンスが良くなっていないというのが現状です。マシンのセッティングのベースが、もてぎが不得意でパフォーマンスが良くないのはわかっていたのですが、ここまで悪いとは思っていませんでした。他のコースではポールポジション争いもしているし、常に上位で予選を終えられてきているので、ここで最下位争いをするのは残念です。もてぎのセッティングは、根本的に見直さなければこの状況を抜け出せないと感じています。



大立 健太

36 / レースエンジニア

対処はしているのですが、今回のQ1予選でもアンダーステア傾向が強いという状況です。アンダーの原因がタイヤのウォームアップが不十分で、タイヤのグリップが発動してくれないのか、セッティング自体がまだアンダーなのかは、細かく分析できていないです。セッティングは、オーバーステア方向に振ってきているのですが、それでもその効果が出ていないのが何故なのかは分かっていません。36号車も37号車もセッティングに大きな違いはないので、莉朋も同じような結果でしたし、原因は同じようなところにあるのかも知れません。セッション毎に路面温度も違いますので、タイヤとのマッチングも大きな要素ではあります。



小枝 正樹

37 / レースエンジニア

セッティングの変更が裏目、裏目に出ていますね。パフォーマンスが足りていないというよりも、マシンのセッティングが逆方向にいつてしまっているという意識もあります。莉朋も若干のミスはあったと言っていますが、トップからコンマ6秒も離されるようなミスではなかったと思われるので、彼のドライビング云々ではなく、マシンに問題があって、Q1グループで一番遅い結果になってしまいました。もてぎに来て、走り出しから解決しきれなかった点を対処したら、悪い方向に入ってしまう、現状はとてもシビアな状況に陥っています。ベースセッティングを再度見直して、決勝に臨みます。



天候：晴れ・ドライ / 気温：31-30℃ / 路面温度：45-44℃

全国的に不安定な天候に悩まされている。第8戦のもてぎも、前日のように午後突然の雨が降るのではないかと予測もあった。しかし午後に進むにつれて、一気に夏が戻ってきて、強い日差しが差し込んだ。グリッドの後方からスタートするKuo VANTELIN TEAM TOM'Sの2台のうち、36号車がグリッドに着いてから燃料系統に不具合が発見されて、ピットに押し戻すことになった。修理を終えてグリッド最後尾(21番手グリッド)について決勝をスタート。ジュリアーノ・アレジは1周目から積極的な展開に持ち込み、1周目に16位、2周目には14位、3周目に13位まで一気に順位を上げていた。一方の37号車、宮田莉朋は、苦しい展開を強いられていた。アレジは、ポイントを獲得できる10位以内の可能性が出てきたが、再び燃料系統のトラブルが発生したためにピットイン。そのままたイヤという残念な結果となった。宮田は14位でレースを終えている。



- 18番手グリッドに着いたアレジだったが、その時点で燃料系トラブルが発見されてしまった。グリッド上で修理することはできず、ピットに押し戻すこととなった。短時間で修復でき、グリッドに着くことが許されたが、位置は最後尾。
- アレジは、最高のスタートを切って、どんどんと前車をパッシング。最後尾から5台を抜いて15位。3周目には13位へ。タイヤ交換義務をミニマム周回の10周で行った際には12位まで上り詰めていた。快調なペース、その勢いは第2戦富士以来、久々ポイント獲得圏内でのフィニッシュは確実と思われた。
- ピットイン以降もアレジのアグレッシブなレース展開は続き、12位まで順位を戻した。しかし、再度燃料系のトラブルが発生して力なくピットへ。エンジン本体への悪影響が及ぶリスクを回避してリタイヤを決断せざるを得なかった。
- 宮田のレースは終始困難だった。後続のグループで順位を入れ替えながら、ひたすらゴールを目指し周回を重ね、15位でコントロールラインを通過するのが精一杯。前でフィニッシュした1台が5秒のペナルティを科せられたため、最終結果は14位となった。



Driver	Car No.	Race / Fastest Lap
ジュリアーノ アレジ	36	R/1'34.762
宮田 莉朋	37	P14 / 1'34.629

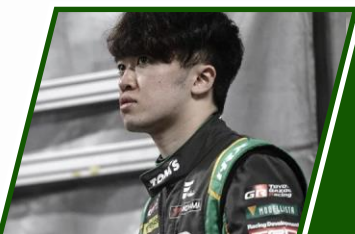
天候：晴れ・ドライ / 気温：31-30℃ / 路面温度：45-44℃



ジュリアーノ・アレジ

36 / ドライバー

決勝に向けて行ってもらったセッティングの変更は、これまでで最高のバランスだった。スタート前にトラブルが発生してしまい、一番後ろからのスタートだったけど、ダッシュも決まって、一気に順位アップできたのは最高だった。ようやく自分が求めていたマシンのバランスを見出せるようになった。雨のウェットコンディションとは異なるドライコンディションでも速さを示すことができている。最後はまたトラブルが発生してしまって、ピットに戻るしかなかったのは残念。走り続けていたらポイントは獲得できたのかな。今回のセッティングをベースに、最終イベントの鈴鹿では、もっと良い結果を残してシーズンを終わられたら最高だ。



宮田 莉朋

37 / ドライバー

決勝に向けてセッティングをいろいろと変えていたのに、何も上手く行かずにとっても低いパフォーマンスで、ただただ周回しているというレースでした。原因は現時点では詳しく分からないし、昨年のもてぎのように、セッション毎にパフォーマンスが向上するということがなかったし、本当に残念な週末でした。タイヤを交換して、そのグリップは高まるのですが、グリップが落ちてくればそれと並行してペースが下がるという状況で、これまでのレースとは全く違っていました。もう最終になりますが、鈴鹿大会ではもてぎの不調を引きずらないように、問題点を解決して、予選から上位を目指したいと思います。



大立 健太

36 / レースエンジニア

トラブルが発生してしまい、グリッドからピットに戻り、最後尾からのスタートとなりました。セッティングの方向性を変えて臨んだ決勝は、それが功を奏した結果として、スタート直後からものすごい順位アップが実現できました。ようやくという結果ですね。最上位で12位まで上がったので、9台抜き！ですね。ウェットの第7戦と同じ順位アップ劇でした。リタイヤは非常に残念でしたが、走行を続けるとエンジンを壊してしまうリスクがあり、絶対に避けなくてはならなかったので、やむを得ない判断でした。しかしながら鈴鹿に向けてのセッティングについて、一部好材料を得られたと思っています。鈴鹿では予選から上位を狙いたいです。



小枝 正樹

37 / レースエンジニア

決勝に向けて、予選での問題点を解決し、アジャストしたのですが、それがうまい方向へは行ってくれなかったという結果でした。スタートからゴールまで苦しい、厳しい走行を強いてしまったのは申し訳なかったです。金曜の練習走行から最後の第8戦決勝まで全く思うように走らせられなかったですね。もてぎに関しては、チームとしてベースセッティングの考え方を根本的に変えなくてはなりませんね。次戦の鈴鹿では、もてぎのような状況にならないようにしたいです。前回の鈴鹿では予選で速さを示すことができているから、そこへ戻して決勝でも良い結果で終わられるようにしたいと考えています。



館 信秀

総監督

前日の第7戦のような雨も心配されたけど、幸いにも予選からドライコンディションとなった。しかし、我がチームにとっては最悪の予選、決勝結果だった。最終イベントの鈴鹿2連戦では、なんとか巻き返したい。IMPULチームのトップ争いは本当に素晴らしいバトルだった。星野監督おめでとう。最終ラップまでの攻防は、見入ってしまう凄さがあった。ただ、それを目の当たりに見ていただいた観客が5千人に満たないことを考えると、この国内トップフォーミュラレースの魅力をもっと知っていただく努力を我々チームも行わなくてはならないと強く感じた。こんな素晴らしいレースをもっと多くの方に見ていただかなければならない。

KUO GROUP

Vバンテリン

Deloitte.



PONOS

KeepPer.



Nippon Pioneer

F.P.JOURNE
Invenit et Fecit



ALLWIN



S&D
TAMA GROUP

細井工業



KenkoTech

EDIFICE
CASIO

豊通テック

NEW TECH

ENKEI ThreeBond MOTUL